

適切な避難行動をとるために

1. 避難の重要性

近年、日本全国でこれまでに経験したことがない規模の災害が毎年のように発生しています。広島県においても、「平成 30 年 7 月豪雨災害」をはじめ、「平成 26 年 8 月豪雨による広島土砂災害」や「平成 22 年 7 月庄原豪雨」などの大災害が発生し、甚大な被害をもたらされました。

平成 30 年 7 月豪雨災害では、設計上前提としている水準以上の土石流が砂防ダムを乗り越えたり、土砂災害警戒区域の指定範囲を越えて土石流が流下するなど、これまで行政が取り組んできた「ハードによる対策」や「周知を徹底する」ということだけでは、対応しきれないことが明らかになりました。

このため、災害から命を守るためには、土石流や河川氾濫などの災害が発生する前に、災害危険区域から立ち退く必要があります。具体的には市町が指定している避難所・避難場所や、親戚の家などの安全な場所へ早めに避難することが重要です。



家屋の被災状況(左:府中市木野山町/右:三原市木原6丁目)



河川の破堤状況(野呂川水系中畑川)



河川氾濫による浸水状況(三原市本郷町)

平成 30 年 7 月豪雨災害被災写真(広島県砂防課・河川課提供)